

News & Topics

19th December 2019

医学

子宮頸がんの早期発見・治療に向け 負担の少ない自己採取キットの活用を

医学部産科婦人科 黒川哲司准教授ら

子宮頸がんは、女性の子宮の下部にできるがんです。日本産科婦人科学会によると、国内では毎年約1万人がこのがんにかかり、近年、20代～30代の若い方々で増える傾向にあります。原因のほとんどはHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染ですが、感染しても約9割の人が免疫の力でウイルスを退治できます。残る方々の一部が異形成という病変を経て、がんになります。

本学医学部産科婦人科学の吉田好雄教授の指導の下、黒川哲司准教授と大沼利通助教、知野陽子助教は、このがんの早期発見・治療に結びつけようと、HPV感染を簡便に調べられる自己採取キットの活用を呼びかけています。

このがんの検診は、医師が子宮頸部の組織をブラシでこすり取って検体とし、顕微鏡で細胞を判別するもので、痛みがあったり、時間的に拘束されたりして被検者には負担が大きいものです。

一方、自己採取キットを使えばがん以前のウイルス感染をチェックするだけであっても、都合のいいときに家庭でも検体を採取できます。



実際のところ、このキットでどれくらい感染を検出できるか、黒川准教授らは2019年1月～7月に臨床研究を行って確認しました。自己採取・医師採取・組織診を同時に行う国内で初めての検証です。医学部附属病院で受診した20代から60代までの100人に、キットの使用とがん検診の両方を行ってもらったところ、子宮頸がん検診で検出しなければならない中程度以上の異形成だった13人全員がキット検査でも陽性であり、陰性なのに同様の病変があった人はなかったなど、有効性が確認されました。

子宮頸がん検診の受診率は全国平均で42.3%（2016年、国民生活基礎調査）にとどまります。知野助教は、自身の経験から20代～30代の方は日常生活で多忙なこともあって平均より受診率が低い傾向と指摘。自己採取キットは、忙しい人に使ってもらいやすく、がんへの関心を高め、陽性であった場合にはがん検診を受けてもらう動機になる、と効果を期待しています。

課題は、キットと検査に1回あたり約4千円の費用がかかること。大沼助教は県、県健康管理協会、日本対がん協会の協力を得て、市や町に助成制度を設けるよう呼びかけています。小さな子どもを残し、母親が子宮頸がんで亡くなる場面に立ち会ったことがあるという黒川准教授は「キットが普及すれば、悲しい場面を少しでも減らせる」と訴えます。

附属病院

病気と闘う子どもたちに笑顔を 小児科病棟に「乗用カート」が寄贈されました

12月9日、福井イーストライオンズクラブから、小児がんの子どもたちを支援するため小児専用の「乗用カート」1台が寄贈されました。

楽しい動物のイラストで飾られたカートはタブレット端末が搭載され、アニメやゲームで検査室や手術室に向かう子どもの不安な気持ちを和らげることが期待されます。小児科の鈴木孝二医師は「このカートに乗って子どもたちに笑顔になって欲しい。病気や検査の説明などにも利用していきたい」と感謝を述べました。



国際地域

えちてつに乗って 学生がデザインしたスタンプを集めよう！

国際地域学部の3年次生が、えちぜん鉄道とコラボした地域活性化企画「冬の福井～あなたとえちぜん鉄道の物語～えちてつスタンプラリー」を、来年1月31日（金）まで開催します。

福井・田原町・勝山・三国・あわら湯のまち・松岡の6つの駅で学生がデザインしたスタンプを押すことができ、3個以上集めて応募すると、抽選でえちてつグッズが当たります。

授業「課題探究プロジェクト」で「人口減少地域を抱える地域鉄道の取り組み」をテーマに学ぶ3名。スタンプのデザインを担当した内田くるみさんは「それぞれの駅に興味を持ってもらえるようなデザインを目指しました。スタンプ集めだけではなく、周辺の観光スポットにも足を運んでもらいたい」と多くの参加を呼びかけています。



※イベントの開始日は12月第4週目（25日頃）の予定です。

医学

令和初の新成人に 医学部生3名の「誓いのことば」

令和初の成人式を迎える医学部医学科2年 南谷浩紀さん、看護学科2年 北出めぐさんと岸 梨花さんが、福井市成人式で新成人を代表し「誓いのことば」を述べることになりました。

南谷さんは一生の思い出にしたいと、小、中学校、高校時代を共に過ごした二人に声を掛け、一緒に登壇することが実現しました。「これまで見守ってくれた方々への感謝と、これからは様々な形で恩返ししていく決意を読み上げたいです」と話し、原稿の打合せを重ねています。



3名は式典後に開催される「はたちのつどい」で企画・運営も務めます。恩師にインタビューをした動画を制作するなど、新成人の記念に残せるように準備しています。

と き 令和2年1月12日（日） 14:00～（開場13:00）
と ころ フェニックス・プラザ（福井市田原1丁目13-6）

Information 胃がんの予防と治療の最前線について講演

医学部附属病院 消化器内科、外科の医師3名が、日本胃癌学会主催 市民公開講座「これでわかる！胃がんの予防と治療の最前線」で講演します。それぞれの分野から、胃がんの予防や患者に負担の少ない外科的手術など、本院で行っている最新の治療についてお話しします。

と き 12月22日（日）10:00～12:00
と ころ 福井県民ホール（福井市手寄1丁目4-1 アオサ8階）
参加費等 無料・事前申込不要
詳細は病院HPをご覧ください

<https://www.hosp.u-fukui.ac.jp/event/11899/>

お問い合わせ 病院広報 TEL: 0776-61-8615

■発行・お問い合わせ■

福井大学 広報センター
〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1
TEL: 0776-27-9733 FAX: 0776-27-8518
E-mail: sskoho-k@ad.u-fukui.ac.jp HP: <https://www.u-fukui.ac.jp>

本年も様々な教育研究活動を取り上げていただき、厚く御礼申し上げます。
来年も引き続きご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

広報センタースタッフ一同